

所員個人研究

地域の学習素材を生かした生活科の指導の工夫
～自己評価カードと援助・評価カードの活用～

学習指導部 大友 誠

1. 研究のねらい

生活科における直接体験は手段ではなく、目標そのものとなる。そうした体験に児童一人一人がどう立ち向かっているか、その内面を見取り、支援していくことはもっとも大切な指導となる。

ここでは、「秋となかよし」の単元において、児童の活動が連続し、発展するための支援の在り方について研究を試みた。

2. 研究の実際

(1) 自己評価カードについて

児童が学習を振り返ったり、教師が児童の学習意欲や興味関心をとらえ、指導に生かしたりするうえで、自己評価を重視したいと考えた。

本単元では、活動のまとめごとに「できたぞカード」と名付けた4種類を準備して、学習終了時に記入させた。学習を振り返り、該当するところに○をつける短時間の作業である。ただし、「できたぞカード」2, 3は、自由記述も取り入れた。

以下は、カードの具体例と考察である。

① 「できたぞカード」1

クイズ		をしたこと	
		なまえ M. O	
		じぶんのかつどう	じぶんのようす
①	もっとやり たいこと	なまえをあてたか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
②	くふう したこと	音をきいて かんがえたか	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

紙袋に入れた木の実(松ぼっくり, どんぐり)や木の葉(いちょう, もみじなど)の実物, テープレコーダーでスズムシやコオロギの鳴き声を提示し, 名前当てクイズをした後, 正答割合や活動意欲を把握するために記入させた。

ほとんどの児童が名前を知っていた。もみじの葉っぱから、「まっかな秋」の合唱に発展するハプニングもあった。

② 「できたぞカード」2

近くにある丸山公園で木の実や木の葉さがしをした後で、活動の様子や協力などについてとらえるために記入させた。

木のは、木のみさがし		をしたこと	
		なまえ M. O	
		じぶんのかつどう	じぶんのようす
①	もっとやり たいこと	木のはや木のみを 見つけたか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
②	くふう したこと	学校のまわりでも 見つけたか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③	ともだち とのこと	なかよくできたか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
④	そのほか	けがをしないよう きをつけたか	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

じまんしたり、しらせたいこと

みんながもっていないよな
すくきれいなはっぱ
をみつけた。

「じまんしたり、しらせたいこと」の主なもの、松ぼっくりをたくさん拾ったこと、もみじやいちょうの葉を拾ったこと、